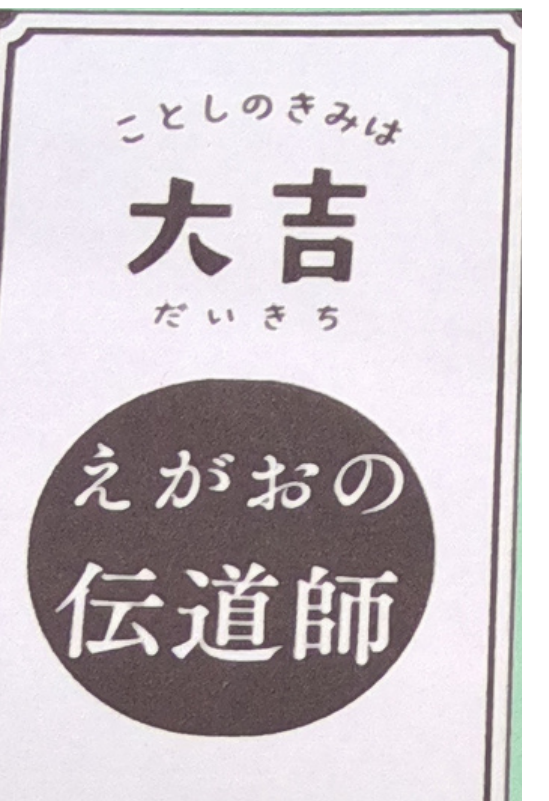




ほっと通信

久しぶりの通信です！
何かとしんどい6月・・・
ですが、4月のおみくじで
「笑顔の伝道師」を引いたことを
思い出しました！！
笑顔を忘れずにいたいと思います！！



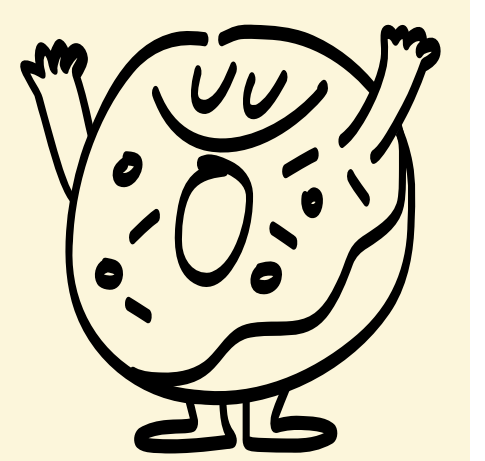
研究授業・研究協議ありがとうございました

ベテランと呼ばれる年になると、授業について意見をもらえる機会は少なくなるので、子どもたちの姿から授業の手立てや進め方について、さまざまな角度でご意見をもらい、大変貴重な機会となりました。藤井先生が子どもや授業を見る視点を前もって示してくださっていたので、みなさんが主役となって研究授業・研究協議に参加してくださり、授業者としてはとても心強かったです。
改めて、先生方、藤井先生、そして5年1組の子どもたちに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

授業レポート！

次の日、5年3組で西田先生が同じ授業をされました！！

同じ内容、同じ流れで授業されたのですが、西田オリジナルや3組の子どもたちならではの気づきから面白い展開があったので、紹介します！



①「？」の封筒から、子どもが短冊を引く

普段なかなか手を挙げない子も、手を挙げている姿がありました。
「何が出るだろう？」というワクワク感をクラス全体で味わうことができ、教室が一気に活気づきました。
「？の封筒」とか「？ボックス」は、よく授業の導入などで使われますが、教師が引くことは操作性に繋がれるし、子どもが引くことはよりワクワク感に繋がられます。子どもの前のめりの姿につながる有効な手立てだなと改めて感じました。

②めあては子どもの言葉で！

あたりとはずれの短冊が3つずつ並んだところで、西田先生が子どもにめあてを考えるように声かけすると、口々に子どもたちが発言し、「あたりとはずれのちがいをみつける」というめあてになりました！いつも思うのですが、西田先生は、子どもに委ねる、子どもの声を拾うのがめちゃくちゃうまいです！

③「80×1」の式を書いた子がいた！

3組では短冊に「80×1」を書いた子がいました！その子は「オレ、優しいからめちゃくちゃ簡単な式にした！」と言いながら「あたり」に短冊を貼っていました！その後、「80×1」はあたりか？はずれか？という論争が巻き起こり、最終的に「あたり」「はずれ」に入らない「中間」という新たなグループができ、自分はどれだと思うか挙手するという展開になっていきました。
「80×1」を「はずれ」だと思う子が4人ほどいたのですが、その理由が「なんとなく...」「びみょう...」という言葉で、それを言えるのがめちゃくちゃいいなと思いました。言葉にはならないけど、「あたり」でも「中間」でもないと思った感覚をつたなくてもその子なりの言葉で伝えようとしていること、そして言えるクラスであることがめちゃくちゃ素敵だな～と思いました！！
「80×1」のおかげで、1をかけることの不思議さや謎を感じる子どもたちの姿が見られ、とても面白い展開になっていました。

クイズです！！

柿

この漢字
何と読むでしょう？

答えはマツト先生まで！！
マツト先生は、7月にある日本語技能検定試験に向けて、難しい漢字や文法の勉強を頑張っておられます！！ちなみに、私はこの漢字、読めませんでした！